



タマネギべと病は大発生すると減収などの甚大な被害が生じるため、伝染源となる1次伝染株の発生を抑えることが重要です。

通常、タマネギの1次感染は、定植直後から1月上旬にかけて起こるため、この時期に効果的な殺菌剤を散布することで、発病を低く抑えられます。

これまでに「定植直後から散布する体系」と「定植前のセルトレーから散布する体系」が効果的であることを明らかにしましたが、セルトレーから散布する体系は、防除効果がやや劣っていました。一方で、この体系は省力的であるため、植え付け作業が集中する大規模経営農家でも、適期防除が可能になると

いう利点があります。そこで、定植前のセルトレーから散布する体系の防除効果を高める散布体系を検討しました。試験の結果、気温が高く推移し、べと病1次伝染

タマネギべと病の抑制

セルトレー定植前と4週間後にも散布を

薬剤散布時期と1次伝染株の発病株率

体系名	薬剤散布時期			発病株率
	定植前 (セルトレー苗)	定植2週間後	定植4週間後	
定植前セルトレー散布	散布	散布	なし	5.4%
定植前セルトレー +定植4週間後追加散布	散布	散布	散布	0.8%

※使用した薬剤は定植前ジャストフィットフロアブル、定植後オロンディスウルトラSC
 ※感染は、平均気温6.9℃以上、降水量1mm以上で発生しやすい。
 試験年の定植日(12月6日)から定植4週間後(翌年1月3日)までの平均気温は8.0℃

の発病に好適な気象条件下では、セルトレーから散布する体系は防除効果が不足しました。

しかし、これに定植4週間後の散布を追加すると、発病に好適な気象条件下でも薬剤

の効果が安定し、発病が低く抑えられました(表)。

定植4週間後の散布は、定植2週間後の散布以降の気象予報が平年より高く、1次伝染の拡大が予測される場合、行うようにしてください。

(県農林技術開発センター病害虫研究室研究員 柳井瑞帆)